

【報告事項】

1. 令和7年度胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）及び胃がんリスク検診（胃の健康度検査）の実施状況

(1) 検診実施体制

図表 1

	胃部エックス線検査	胃内視鏡検査	胃がんリスク検診
11月末時点の 受診者数 (R7年度見込み人数)	275人 (393人)	912人 (1690人)	106人 (150人)
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団検診 (13日21会場) ・ 5がんセット検診 (1日) ・ 集団特定健診との同日実施 (5回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 31医療機関で実施 ・ 読影会3回/年実施 (※読影会の詳細は下記参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 137医療機関で実施

【胃内視鏡検査読影会 開催状況】




図表 2

	第1回	第2回	第3回
	R7年12月3日 (水)	R8年1月15日 (木)	R8年2月14日 (土)
司会	西山順博医師 (西山医院)	早藤清行医師 (JCHO滋賀病院)	西山順博医師 (西山医院)
症例呈示	木村英憲医師 (滋賀医科大学)	全圭夏医師 (大津市民病院)	青山育雄医師 (大津赤十字病院)
参加者数	5名	18名	8名

合計31名

(2) 受診率向上対策

図表3

周知方法	個別勧奨	<p>【個別勧奨】 (実施時期) 令和7年6月 (対象) 50歳、52歳、54歳、56歳、58歳、60歳、64歳、68歳 (方法) はがき送付</p> <p>【令和7年度における取組強化】 対象者に52歳、56歳、58歳の年齢を追加した。</p>	 <p style="text-align: right;">「個別勧奨はがき」</p>
	追加勧奨	<p>【追加勧奨】 (実施時期) 令和7年11月 (対象) 62歳、66歳のうち、今年度まだ未受診の者 (方法) はがき送付</p>	 <p style="text-align: right;">「追加勧奨はがき」</p>
	広報等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報おおつ掲載 (5月・8月) ・ 健康づくり情報誌 (広報おおつ折込み) ・ ホームページ掲載 ・ LINE及びメール配信 ・ 胃がん検診ポスター掲示 (市民センター及びすこやか相談所) ・ 検診実施医療機関、医師会及び薬剤師会に「大津市がん検診のご案内」ポスターの掲示を依頼 	 <p style="text-align: right;">「大津市がん検診のご案内」</p>

(3) 受診状況 (胃がん検診全体)

図表4

	R 4	R 5	R 6	R 6 (11月末時点)	R 7 (11月末時点)
対象者数	108,883	99,001	101,484	101,484	103,837
合計受診者数 (X線+内視鏡)	2,379	2,118	2,129	1,203	1,187
受診率	2.8%※1	3.1%※1	4.1%※2	—	—
要精密検査者数	172	149	110	78	58
要精検率	7.2%	7.0%	5.2%	6.5%	4.9%
精密検査受診者数	169	147	110	74	49
精検受診率	98.3%	98.7%	100%	94.9%	84.5%
がん発見数	4	4	4	2	1
がん発見率	0.17%	0.19%	0.19%	0.17%	0.08%
陽性反応的中度	2.33%	2.68%	3.64%	2.56%	1.72%

胃がん検診 (全体) の受診状況

- ・令和7年度の11月末時点では、令和6年度11月末時点に比べて受診者数に大きな変化はない。

胃部エックス線検査の受診間隔の変更に伴い、令和5年度までと令和6年度について、それぞれ下記の方法で受診率を算出している。

※1 R2～R5受診率 = (「前年度の内視鏡受診者数」 + 「当該年度の内視鏡・エックス線受診者」 - 「連続受診者」) / (当該年度の対象者数)

※2 R6受診率 = (「前年度の受診者数」 + 「当該年度の受診者数」 - 「連続受診者数」) / (当該年度の対象者数)

(4) 受診状況 (胃部エックス線検査)

図表5

	R4	R5	R6	R6 (11月末時点)	R7 (11月末時点)
対象者の年齢	40歳以上	50歳以上	50歳以上の偶数年齢		
対象者数	108,883	99,001	101,484	101,484	103,837
受診者数	1,336	770	367	209	275
受診率	1.2%※1	0.8%※1	1.0%※2	—	—
要精密検査者数	95	54	11	7	12
要精検率	7.1%	7.0%	3.0%	3.3%	4.4%
精検受診者数	92	52	11	4	7
精検受診率	96.8%	96.3%	100%	57.1%	58.3%
がん発見者数	1	0	0	0	0
がん発見率	0.07%	0%	0%	0%	0%
陽性反応的中度	1.05%	0%	0%	0%	0%

【12月以降の胃部エックス線検査の予約申込数】

集団検診	56名
がんセット検診	58名
集団特定健診と同日	4名
合計	118名

図表6

胃部エックス線検査の受診状況

- ・令和5年度より対象者を変更している。(図表5)
- ・令和7年度11月末時点の受診者数は275名、12月以降の予約申込数が118名であり、年間393名の受診(前年度比+26名)を見込んでいる。
- ・令和7年度は、11月末時点でがんの発見は無い。

胃部エックス線検査の受診間隔の変更に伴い、令和5年度までと令和6年度について、それぞれ下記の方法で受診率を算出している。

※1 R2~R5受診率 = 「当該年度エックス線受診者」 / (当該年度の対象者数)

※2 R6受診率 = (「前年度の受診者数」 + 「当該年度の受診者数」 - 「連続受診者数」) / (当該年度の対象者数)

(4) 受診状況（胃部エックス線検査）

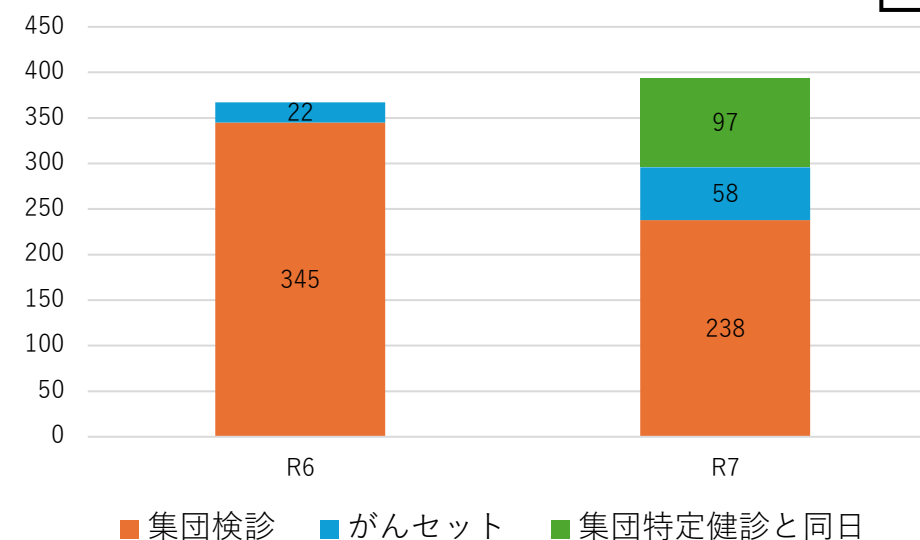
【受診会場ごとの受診状況】

図表7

	R6	R7年度 (見込み)	R7年度 受診割合
集団検診（胃単独）	345	238	60.5%
5がんセット検診	22	58	14.8%
集団特定健診と同日実施	—	97	24.7%
合計	367	393	100%

【令和7年度受診会場ごとの割合】

図表8



受診会場ごとの受診状況

- ・令和7年度より、集団特定健診と同日に胃がん検診が受診できる日程を新たに5日間設定した。
- ・約4割の方が、集団検診以外の会場を選択された。

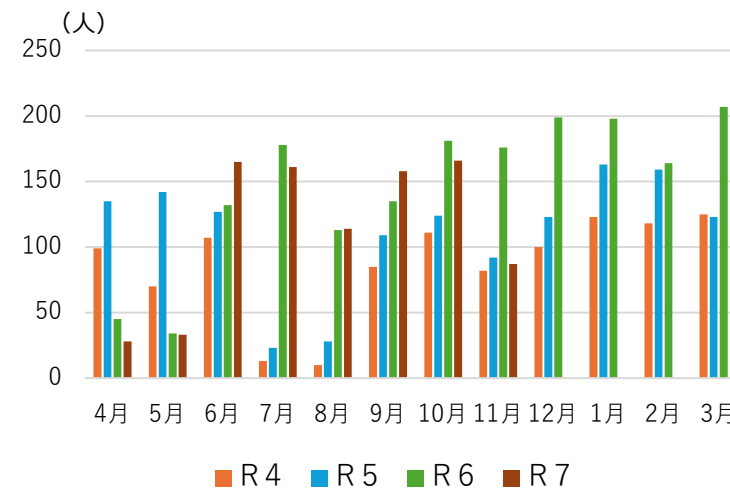
(5) 受診状況 (胃内視鏡検査)

図表9

		R4	R5	R6	R6 (11月末時点)	R7 (11月末時点)
対象者数		108,883	99,001	101,484	101,484	103,837
受診者数		1,043	1,348	1,762	994	912
受診率		1.5%	2.4%	3.0%	—	—
総合判定	精密検査不要	909	1,188	1,649	929	852
	ピロリ菌感染症胃炎の疑い	44	45	59	32	30
	要治療・要受診 (胃がん以外)	16	31	35	22	19
	要精密検査	74	84	19	11	11
要精密検査者数	生検(有)	77	94	93	69	42
	生検(無)ダブルチェック要再検	0	1	6	2	4
	合計(要精密検査者数)	77	95	99	71	46
生検率※1		7.4%	7.0%	5.3%	6.9%	4.6%
要精検率		7.4%	7.0%	5.6%	7.1%	5.0%
精検受診者数		77	95	99	70	42
精検受診率		100%	100%	100%	98.6%	91.3%
がん発見数		3	4	4	2	1
がん発見率		0.29%	0.30%	0.23%	0.20%	0.11%
陽性反応的中度		3.90%	4.21%	4.04%	2.82%	2.17%

【月ごとの受診者数】

図表10



※R7の11月は、11月末時点で検診票が市に返ってきた分になります。

胃内視鏡検査の受診状況

- ・令和7年度11月末時点の受診状況は前年度からやや減少しているが、年間の受診者数は前年度並みを見込んでいる。
- ・令和7年度11月末時点の生検率は4.6%であり、10%以下の目標を満たしている。
- ・令和7年度は、11月末時点で1名の胃がんを発見した。

※1 生検実施率の目標 ~対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル2017年より~ 【抜粋】

導入時は、胃内視鏡検診の生検実施率は15%以下に留めるべきである。さらに、精度管理体制を整備することにより生検実施率を10%以下にすることを目標とする。

(6) 胃内視鏡検査におけるがん発見症例について (R7.11月末時点)

図表11

	年度 年齢	性別	ピロリ菌感染状況	所見部位		肉眼 分類	総合判定
ケース1	80歳	男	H.pylori感染(既)	体下部	小弯	Ⅱa	早期胃がん (粘膜内がん：壁深達度M)

胃内視鏡検査からのがん発見症例

- ・80代男性、ピロリ菌除既感染の方が、早期胃がんで見えられている。
- ・ケース1の過去の受診歴は、令和5年度に同じ医療機関で大津市胃がん検診(胃内視鏡検査)を受診していた。前回の結果は、ピロリ菌感染症胃炎の疑いとなっていた。

(7) 偶発症の報告状況 (R7.11月末時点)

図表12

	年度 年齢	性別	抗血栓薬 服用中の有無	検査方式	偶発症 の種類	部位	重症度	転帰	発生時の状況
ケース1	56歳	男	無	経口	その他	食道	軽症	帰宅	内視鏡検査で逆流性食道炎を認め た方で、抜去時に逆流性食道炎の びらん部より流出性出血を認めた

(8) 指針に基づかない生検の実施について (R7.11月末時点)

令和7年度に抗血栓薬服用の不明または服用中に生検を実施した者 (R7.11月末時点)

図表13

年度 年齢	性別	問診：抗血栓薬の服用	抗血栓薬の薬剤名	検査 方法	偶発症 (有・無)
78歳	男	有	アスピリン シロスタゾール	経口	無

令和7年度 (R7.11月末時点)
抗血栓薬服用中の生検
・服用中に生検した者：1件

(参考) 令和6年度：4件

令和7年度に十二指腸の生検を実施した者 (R7.11月末時点)

図表14

年度 年齢	性別	生検部位	検査方法	偶発症 (有・無)
78歳	女	十二指腸	経口	無
52歳	男	十二指腸球部	経口	無

令和7年度 (R7.11月末時点)
十二指腸生検
・十二指腸生検は2件実施

(参考) 令和6年度：5件

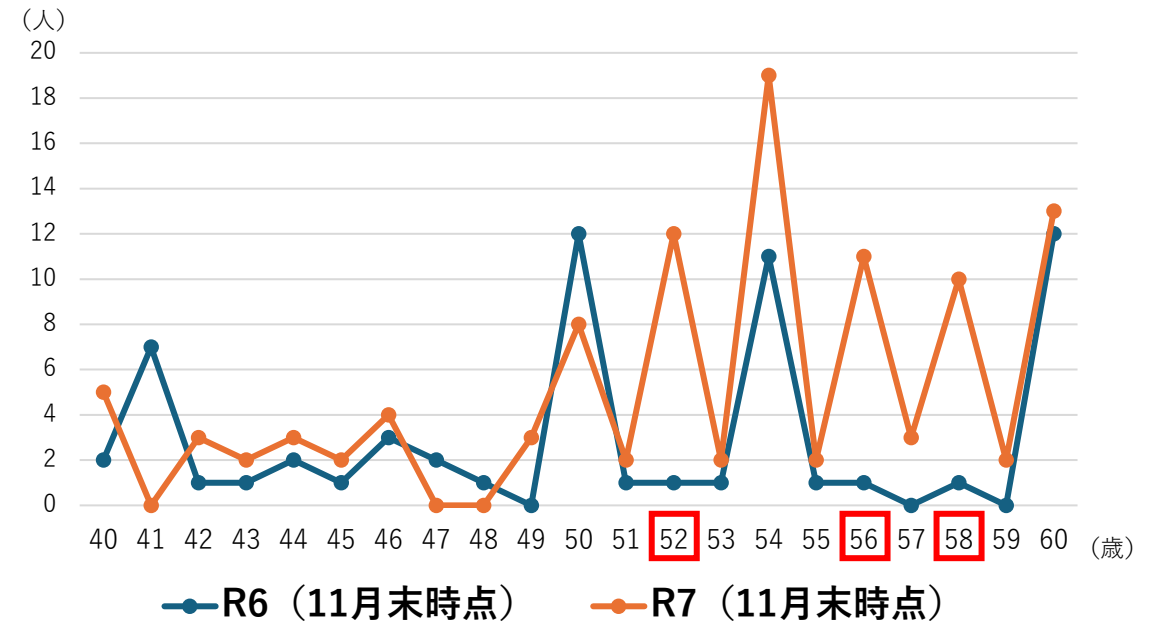
(9) 胃がんリスク検診の受診状況

図表15

		R 4	R 5	R 6	R 6 (11月末時点)	R 7 (11月末時点)
受診者数		181	130	112	61	106
検査結果	A群	154	105	88	47	88
	B群	14	17	17	10	15
	C群	13	8	7	4	3
要精密検査者		27	25	24	14	18
要精検率		14.9%	19.2%	21.4%	23.0%	17.0%
精検受診者数		27	25	22	9	11
精検受診率		100%	100%	91.7%	64.3%	61.1%
がん発見数		0	0	0	0	0
ピロリ菌除菌状況		18	18	12	8	6

【年代別受診者数の比較】

図表16



胃がんリスク検診の受診状況

- ・6月に送付した個別勧奨はがきの送付対象者を増やした(52,56,58歳)ことで、受診者が増加した。(図表16)
- ・要精検率は、近年20%程度で推移している。(図表15)